

## 令和元年度第3回焼津市総合教育会議議事録(概要)

1 開催日時 令和2年2月21日(金) 午後3時00分から午後4時00まで

2 会場 焼津市役所6階 603号室

3 出席者

(構成員)

市長 中野弘道

焼津市教育委員会

教育長 佐藤美代志

教育委員 大石智之 奥川重子 山竹葉子 出野 勉

(関係者)

副市長 下山晃司

社会教育委員長 渡邊徹

(事務局)

事務局長 岡村敏典、こども未来部長 渡辺晃子、教育総務課長 増田洋一  
学校教育課長 近藤和人、社会教育課長 見崎孝之、学校給食課長 鈴木孝之  
文化財課長 杉本弘行、図書課長 石上睦晃

こども相談センター所長 櫛田隆弘

学校教育課主席指導主事 多々良博之、学校教育課主席指導主事 寺尾正幸

教育総務課総務担当主幹 日下部充

4 協議事項

(1) 教育センター事業について

(2) 家庭教育と学校の問題について

(3) 令和2年度の協議事項について

5 議事内容

別紙のとおり

<p>中野市長</p>	<p>【午後 3 時 00 分開会】</p> <p>(次第 1 開会)</p> <p>(次第 2 市長あいさつ)</p> <p>この「総合教育会議」は、教育委員会と行政が教育施策の方向性を一致させ、より良い教育環境の構築を目指すことを目的としている。本年度は、昨年 6 月の保育園児の交通事故やスクールバスを待つ児童らが襲われた事件を受け、「焼津市子どもを守る緊急対策アクション」を取りまとめ、児童生徒が安全で安心して学校生活を送ることができるよう、学校の環境整備に取り組んできた。本日は、教育センター事業、家庭教育と学校の問題について御協議いただき、来年度の協議事項について御意見を伺うこととなっている。教育委員の皆様には忌憚のないご意見をお願いしたい。</p>
<p>近藤学校教育課長</p>	<p>(1) 教育センター事業について (配付資料により説明)</p> <p>◎令和元年度報告と 2 年度の取組</p> <p>1 教育センター事業の目的 未来に羽ばたく子どもたちを育成するために、焼津市立学校の教育力の向上を図る。</p> <p>2 教師力強化事業</p> <p>(1) 授業力向上研修～若手講師指導～</p> <p>① 授業づくりを中心に学校訪問による指導を行った。年間 6～7 回訪問した。</p> <p>② ①の若手講師を対象に年 2 回一斉研修を実施した。第 1 回、授業づくりについて (8/6) 第 2 回、教師のやりがい (11/25)</p> <p>令和 2 年度の取組 ①では、本年度から始めた授業づくり面談を積極的に実施していく。②では、特別支援教育の内容を組み込む。</p> <p>(2) 教職経験 2 年目教員パワーアップ研修</p> <p>授業づくりを中心に学校訪問による指導を行った。年間 2～3 回訪問した。</p> <p>令和 2 年度の取組 授業訪問に加えて法定研修にも参加し、指導・支援の充実を図る。</p> <p>(3) 教職経験 3 年目レベルアップ研修</p> <p>授業づくりを中心に学校訪問による指導を行った。年間 2 回訪問した。</p> <p>令和 2 年度の取組 授業訪問に加えて法定研修の準備を進め、研修内容の充実を図る。</p> <p>(4) 希望による訪問研修</p> <p>東益津中学校「道徳科の評価について」(7/30)、大富小学校 「研究授業 6 年社会科」(11/20)</p> <p>令和 2 年度の取組 研修主任研修でも広報し、事業を周知させ実績をつくっていく。</p> <p>3 授業・学習支援事業</p>

<p>(1)授業支援関係  支援を希望する学校に対して、退職教員等による授業中の児童・生徒のサポートを行う。学校の要請に応じて教育センターが調整し、ボランティアを派遣する。要請がなかった。  令和2年度の取組 要請があれば可能な限り応じていく。</p> <p>(2)学習支援（放課後学習支援教室：ステップアップ教室）  焼津南小ほか7校で実施した。募集人数はいずれも30人。</p> <p>(3)サマーステップアップ教室</p> <p>① 全小学校の6年生を対象に3公民館で実施した。</p> <p>② 5中学校の1、2年生を対象に4つの会場で実施した。参加は自由。</p> <p>4 外国語指導助手配置事業</p> <p>(1)外国語指導助手（ALT）の派遣</p> <p>① 第3、4学年</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市が直接雇用している小学校ALT（小木曾、井澤、野崎、安野）が担当。</li> <li>・年間15時間の全授業に配置。各校年間10時間分の打合せ時間を確保。</li> </ul> <p>② 第5、6学年</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・派遣業務委託のALT（株式会社インタラック関西東海）6名を配置する。</li> <li>・年間50時間の全授業に配置。</li> </ul> <p>③ 特別支援学級</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各校10時間の外国語授業に小学校ALTを派遣。</li> </ul> <p>④ 中学校ALTは中学校専任で3名配置し各校を巡回する。</p> <p>令和2年度の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校外国語授業の増加に伴い、派遣業務委託のALTを3人増員。</li> <li>・小学校3年生には小学校ALTを派遣。年間35時間の全授業に配置。</li> <li>・小学校4、5、6年生には、派遣業務委託のALT9名を配置する。小学校4年生の年間35時間、5、6年生の年間70時間の全授業に配置。</li> <li>・特別支援学級には各校10時間の外国語授業に小学校ALTを派遣。</li> </ul> <p>(2)小学校外国語活動研修会の実施  各小学校で年1回、業務委託先ALTトレーナーによる教員対象の「英語ブラッシュアップ研修」を実施した。</p> <p>令和2年度の取組 研修内容についてリクエストを聞き、可能な限り応じていく。</p> <p>5 教育センター事業本格実施に向けて</p> <p>令和2年度の取組</p> <p>(1)情宣・広報</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年度当初（4月）に、ステップアップ教室、ALTの配置について広報やいづに掲載したい。</li> <li>・小学校の英語授業本格実施に合わせてALTの活躍を新聞等で報道したい。</li> </ul>
---

(2)施設・設備の整備

庁舎の利用可能な部屋、設備を確認し、整備計画を立て、進める。

(3)初任者研修、2, 3年目教員研修

学校教育課が主催する法定研修に参加し、3年度に実施できるようにする。

(4)みらい講座準備

他市の施設等の視察をしたり、静岡大学等との連携を模索したりする。その他、開催内容について検討する。

(5)みらいホール準備

書籍（教育雑誌）の購入計画を立てるとともに、資料を集める。

(6)みらい塾準備

他市の教師塾等の視察をし、開催内容の概要を立案する。

(7)ALT配置計画の検討

ALTの配置や雇用を今後どのように進めるか検討する。

(8)適応指導教室事業、特別支援教育推進事業準備

学校教育課内や他課と協議し、学校教育課との業務の分担や連携について決めていく。

(9)外国人児童生徒支援事業

研修会に参加するとともに、日常業務についても協働して掌握していく。

◎焼津市教育センター「みらい」

1 事業方針

未来に羽ばたく子どもたちを育成するために、「魅力ある教師の育成」「ラーニング・サポート(授業・学習支援)」「居心地のよい環境づくり」を推進し、焼津市の教育力の向上を図る。

(1)魅力ある教師の育成

若手教師の育成や、教職員の自主参加型研修、将来教員を志す人材の育成事業を展開し、魅力ある教師の育成を推進する。

・教師力育成事業（法定研修含む）・教職員自主研修事業・みらいの先生育成事業 等

(2)ラーニング・サポート(授業・学習支援)

子どもたちの学習を支援する「ステップアップ教室」や、授業づくりを支援する校内研修支援、外国語指導助手配置等を実施し、ラーニング・サポート(授業・学習支援)を推進する。

・学習支援事業（ステップアップ教室・サマーステップアップ教室）

・授業支援事業・外国語指導支援事業・ICT教育推進事業

(3)居心地のよい環境づくり

適応指導教室や通級指導教室の設置、外国人児童生徒への支援体制を整備し、どの子にとっても居心地のよい環境づくりを推進する。

・適応指導教室事業・特別支援教育（通級指導教室）事業・外国人児童生徒支

援事業 等

## 2 組織体制

学校教育課長、教育センター所長（主席指導主事）、指導主事 2 名

センター合言葉は、日本一「汗かく」教育センター。

- ・足を運ぶ（授業支援・校内研修支援・ステップアップ教室）
- ・百人力（指導員 3 人、A L T 13 人、学習ボランティア 33 人、通級指導教室支援員 4 人、外国人児童生徒支援員 44 人）

## 3 事業内容

(1) 魅力ある教師の育成

### ① 教師力育成事業（法定研修を含む）

ア 若手講師授業力向上研修

- ・経験年数の少ない若手講師を対象に、学校訪問による指導を行う。授業力向上に向けた指導を中心に、学級経営、生徒指導などについて指導を行う。
- ・若手講師を対象に、年 2 回の一斉研修を実施する。

イ 初任者研修（法定研修）

- ・教師としての心構えや学習指導、生徒指導、学級経営について演習を交えた研修を行う。

ウ 2 年目教員パワーアップ研修

- ・学校訪問による指導を行う。授業力向上に向けた指導を中心に、学級経営、生徒指導などについて指導を行う。
- ・教員としての視野を広げる体験活動研修や授業づくり研修を行う（法定研修）。

エ 3 年目教員レベルアップ研修

- ・学校訪問による指導を行う。授業力向上に向けた指導を中心に、学級経営、生徒指導などについて指導を行う。
- ・教員としての視野を広げる体験活動研修や授業づくり研修を行う（法定研修）。

### ② 教職員自主研修事業

ア みらい講座

教職員のニーズを基に、自主参加型の講座を開催する。原則として金曜日の午後 6 時から 9 時までの 2 時間程度のものとする。

イ みらいホール

教育関連図書（各社の教科書、資料集及び教育雑誌等）やパソコンを整備し、○曜日の夜間、市内小中学校の教職員に開放する。また、自主研修会の開催などの要請に応じてみらいホール等センター内のスペースを貸与する。

### ③ みらいの先生育成事業（みらい塾）

次年度の教職員採用試験を受験する意志がある講師や講師希望者、大学生・大学院生を対象に、金曜日（土曜日）の夜間に「みらい塾」を開設する。教職員

としての基本的な知識や技能を身に付けるための講座や演習を行う。また、自主参加型の学習会を行う。

(2) ラーニング・サポート(授業・学習支援)

① ステップアップ教室

小学校3年生の希望者を対象に、放課後の空き教室を利用して算数の学習支援を行う。定員を30人程度とし、前期(6～10月)と後期(11月～2月)に分け、月2回(計8回)実施する。(令和元年度:前期5校、後期3校で実施)

② サマーステップアップ教室

小学校6年生と中学校1年生を対象に、公民館や中学校を会場として夏休みの宿題や自主学習の学習支援を行う。定員を30人程度とし、2回ずつ実施する。(令和元年度:全小学校を対象に公民館3会場で、5中学校を対象に中学校4会場、公民館1会場で実施)学習支援ボランティアとして、地元高校生の活用を図る。

③ 授業支援事業

ア 希望訪問研修

校長による推薦または本人の希望、校内研修における要請により、訪問による授業参観・助言指導や相談等を行う。学校の要請に応じて柔軟に実施する。

イ 授業・学習支援

支援を希望する学校に対して、退職教員等による授業のサポートを行う。学校の要請に応じて学習ボランティアを派遣する。

④ 外国語指導支援事業

ア 外国語指導助手(ALT)の派遣

・小学校:市で雇用する4人のALTと、派遣業務委託の9人のALTを配置し、市内すべての小学校を巡回する。年間を通して決まった曜日に決まった学校に勤務するようにし、小学3・4年生は年間35時間、5・6年生は年間70時間の授業をTTで行えるよう派遣する。また、市で雇用するALTには各校年間10時間の打合せ時間を確保し、さらに特別支援学級で各校年間10時間の授業をTTで行えるようにする。

・中学校:派遣業務委託の3人のALTを配置し、市内すべての中学校を巡回する。

イ 小学校外国語指導研修会

各小学校の担当者等を対象に、年3回の一斉研修を行う。

ウ 英語ブラッシュアップ研修

各小学校で、業務委託先ALTトレーナーによる教員対象の研修を行う。

⑤ ICT教育推進事業

情報教育推進委員会と連携し、教職員の情報教育実践力や情報機器活用能力、情報モラル意識の向上に関する研修を行う。

(3) 居心地のよい環境づくり

	<p>① 適応指導教室事業  適応指導教室（焼津チャレンジ・大井川チャレンジ）を運営し、学校復帰を目的として、児童生徒個々の状況に応じて、教科指導や体験学習等を通して、集団生活への適応指導を行う。また、学校や子ども相談センター等と連携し、児童生徒及び保護者に対する教育相談やカウンセリングを計画的・継続的に行うことを通して、悩みや不安の軽減を図る。</p> <p>② 特別支援教育（通級指導教室）事業  通級指導教室を運営し、障害等により集団での生活や学習に困り感のある子どもを対象に、通常の学級に所属しながら、困り感の改善・克服に必要な指導を行う。</p> <p>③ 外国人児童生徒支援事業  焼津市に暮らす外国人児童生徒のニーズに応じた支援を行い、焼津市の学校へのスムーズな就学及び、安定した学校生活に向けた支援を行う。</p> <p>ア 日本語指導教室（MIRAI 日本語教室）  学校生活への適応に課題を持つ外国人児童生徒に、日本語の初期指導や学び直しを行う。</p> <p>イ 外国人児童生徒支援員の派遣  外国人児童生徒支援員を派遣して、外国人児童生徒の実態に応じた日本語指導、学習支援、相談活動を継続的・計画的に行う。</p> <p>ウ プレスクール  市内小学校に入学予定の幼児に、小学校生活にスムーズに適用できるよう、日本語の初期指導や学校生活の体験等を行う。</p> <p>エ 外国人児童生徒相談活動  外国人児童生徒の学校生活や学習、進路等について、その保護者や教職員に対して相談活動を行う。</p>
出野委員	<p>教師力向上事業と授業支援事業は非常に良いことだと思うので、積極的やっ  て行くべきだと思う。子ども、保護者へのアンケートの中で否定的な意見は無  かったのか。否定的な意見への対応も含めて検討して行ったらいかかと思  える。法定研修等、学校教育課と教育センターの役割分担は決まっているかと思  うが、研修を実施することへの検討となると教育センターでやる方がいいの  かどうかという風に捉えてしまったがどうか。</p>
近藤学校教育課長	<p>アンケートの中では、否定的な意見はひとつも無かった。ステップアップ教  室は、非常に手厚い指導を行っており、子どもたちからも保護者からもいい評  価を得ている。法定研修は、現在、学校教育課で行っているものを教育センタ  ーでやるということである。スムーズに移行できるように詰めて行きたいと思  っている。</p>

奥川委員	<p>2年目・3年目の教員への法定研修は大変ありがたい。現場の教員が、2年目・3年目の教員にどこまで関わるができるかが忙しくさせている要因である。教育センターが関わってくれることで、関わる教員が自分の役割分担に集中できると思う。焼津市の教育施策の中で、支援員をたくさん雇用していただいている。子どもにとっても、教員にとっても大変ありがたいこと。市長が理解を示してくださって、目に見えないところにお金をかけてくださっていることが、焼津の教育の底上げの要因だと見ている。感謝申し上げます。</p> <p>資料5ページの令和2年度を取組をもう少し膨らめていただきたい。13ページの外国人児童生徒支援事業は、焼津市教育委員会の特色のひとつとして新聞報道もあり、現場をよく捉えて取組をしてくれていると感じる。プレスクールは今までの課題だったと思う。そこに支援してくださったことは大変ありがたい取組だと思う。</p>
近藤学校教育課長	<p>外国語活動授業も来年度、時間が増えるので現場の先生たちが自分から進んで取り組めるように、今後この研修を深めて行きたいと考える。プレスクールは、5回実施した中で一番多い時で子どもが23人来ている。この活動も更に充実させて行きたいと思う。</p>
佐藤教育長	<p>子どもたちが、勉強していてつまずき始めるのが小学校3、4年生である。ステップアップ教室には、算数でつまずき始めた子たちが希望して来ている。手をかけること、学習し直すことが大事である。早く、小学校13校全体を網羅することが大事かと思う。</p>
大石委員	<p>ステップアップ教室のアンケート結果で、97%が楽しかった3%が楽しくなかったという回答が来ているので、この3%の意見も積極的に聞いて行っていただきたい。定員はどこまで許容できるのか。大きい規模の所は募集人員を増やすという対応ができるのか。来年度からプログラミング教育が始まるが、準備状況、教育センターとしての支援について伺いたい。</p>
近藤学校教育課長	<p>ステップアップ教室については、3%の意見を大切に考えて行きたいと思う。人数については、指導員の数を考えると30人が限界と思うが、たくさん子どもたちが希望してくれるので、来年度は、募集方法について工夫をしながら進めていきたいと考えている。プログラミング教育については、新しい教科書の中に教科の中で盛り込む内容が入ってきているので、教科書に基づいてやってくるのがメインになるが、各学校で工夫しながら取り組んでいる。今朝の新聞で、豊田小学校の取組が紹介されていた。それぞれの学校で計画を立てている。教育センターとしても、ICT教育推進事業に位置付けてプログラミングも含めて、ICTを活用した教育への取組を研究したり、先生方への研修</p>



大石委員	<p>をしたりと充実を図って行きたいと考えている。</p> <p>希望する人数に対して、サポートを受けられる人数が絞られてくる可能性が高いので、どうするかがこれからの課題だと思う。サポートしていただける講師の方がいらっしゃるのであれば、増やすことを方向性として持っていただくことを希望します。</p>
山竹委員	<p>ステップアップ教室は、学校がやることと塾・家庭教師がやることの区別が難しくなってきたのではないかと思います。どこまでやらなければいけないのかという事が問題かなと感じた。資料 11 ページのみらい講座は具体的に進んでいるのか。研修は先生が自由に出掛けるということもあるのか伺いたい。</p>
近藤学校教育課長	<p>みらい講座は、計画の段階で立ち上がっていない。令和 3 年度、4 年度に向けて考えている。静岡大学と連携しながら、現場の教員の要望にそくした内容の講座ができればと考えている。教師の研修に自主的に参加されている方もいる。教育センターの講座にも、たくさん参加して教師力向上を図って行きたい。</p>
近藤学校教育課長	<p><b>(2) 家庭教育と学校の問題について</b> (配付資料により説明)</p> <p>◎学校及び他機関向け説明文書の一部訂正について</p> <p>学校福祉とはの背景において、家庭や子どもの育ちをめぐる問題は、複雑化、多様化し、子どもにとって望ましい家庭環境に向けての支援を行うには、専門的なスキルが求められるようになってきました。また、問題を抱える家庭の保護者は、日常的にストレス等を抱え、子どもへ上手にかかわれなくなるため、子どもが落ち着いて学校生活を送ることができなかつたり、不登校傾向になったりする状況も見られます。そこで、学校教育課内に学校福祉支援室を設置し、スクールソーシャルワーカーなどの専門職やこども相談センターなどの専門機関と緊密に連携したり、民生委員など地域の皆さんとともに家庭訪問したりするなど、家庭・子どもへの総合的な支援を行うことができるよう、支援体制の充実を図っていきます。に訂正する。</p> <p>◎家庭・子ども支援担当の職務内容について</p> <p>○学校福祉支援室を置く目的</p> <p>学校の教員は、日々の子どもの様子の観察を通じて、家庭環境の問題に比較的気付きやすい立場にある。しかし、一方で、家庭や子どもの育ちをめぐる問題は、複雑化、多様化し、子どもにとって望ましい家庭環境に向けての支援を行うには、専門的なスキルが求められるようになってきた。また、問題を抱える家庭の保護者は、日常的にストレス等を抱え、子どもへ上手にかかわれなくなるため、子どもが落ち着いて学校生活を送ることができなかつたり、不登校</p>

	<p>傾向になったりする状況も見られる。そこで、学校教育課内に学校福祉支援室を設置し、スクールソーシャルワーカーなどの専門職やこども相談センターなどの専門機関と緊密に連携したり、民生委員など地域の皆さんとともに家庭訪問したりするなど、家庭・子どもへの総合的な支援を行うことができるよう、支援体制の充実を図っていくことを目的とする。</p> <p>○具体的な事業及び予想される事例</p> <p>(1) 不登校家庭訪問相談事業「はじめの一步」(仮)の実施 事業へ、本人または保護者から申し込みをしてもらい、訪問支援を始める。</p> <p>(2) 子どもの学校生活充実訪問相談事業「ささえて一步」「いっしょに一步」(仮)の実施</p> <p>①経済的な問題を抱える家庭への支援「ささえて一步」(仮) 学校諸会費等の滞納など経済的な問題で困っている家庭に、学校から教育委員会へ相談するよう促してもらう。</p> <p>②様々な困り感から学校生活に不安を感じている家庭への支援「いっしょに一步」(仮) 家庭から学校へ相談があったケースで、学校で対応困難な場合、学校から教育委員会へ相談するよう促してもらう。</p> <p>○学校福祉支援室 組織拡大 移行計画 (案)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和2年度 組織人員：3名体制(担当主席1、担当指導主事1、担当主査1) 不登校家庭訪問の相談事業：事業の充実 子どもの学校生活充実訪問相談事業：学校からの要望があれば対応</li> <li>・令和3年度 全体的な流れ：学校福祉支援課(仮称) 組織人員：5名体制(課長1、担当主席1、担当指導主事2、担当主査1) ※訪問支援員を確保</li> <li>・令和4年度 全体的な流れ：事業の充実・拡大</li> </ul>
奥川委員	<p>名称ですが、今までは「家庭・子ども支援チーム」で来ていたので、「学校福祉支援室」は固いと思う。内容を読めばわかるが、名称で抵抗を感じてしまった。名称の変更ができないかという思いがある。</p>
近藤学校教育課長	<p>名称に触れずに申し訳ありません。来年度の組織の中で他課との協議で「学校福祉支援室」が出てきた。</p>
中野市長	<p>わかりやすい名称が市としてもありがたいので、改めて検討し直して行きたいと思う。</p>

奥川委員	ありがとうございます。よろしくお願いします。
出野委員	15 ページのポンチ絵はわかりやすくなって良いと思う。家庭、子どもに対して何ができるかという意味ではネーミングの問題もひとつあるのかなと思う。基本的には、各学校からの支援依頼に基づいて動くという事になっているが、一般家庭は「学校福祉支援室」へ行けば相談に乗ってくれると思っていると思うがどうか。
近藤学校教育課長	学校からだけでなく保護者から要請があれば、対応して行くという事で考えている。来年度やりながら充実を図って行きたい。ポンチ絵図についても、保護者からを加えて行きたい。
大石委員	学校に説明する機会に、主旨を理解していただいて細かなことでも情報を上げていただく体制を作っていただければと思う。
山竹委員	学校からの要請によってという事が強く感じられた。また、17 ページの令和2年度以降考えられる取組の中で、「・・・(学校の迷惑にならなければ)・・・」というところが、ちょっと引っかかりました。令和2年度から3名体制でスタートしてどんな問題がくるかわからないが、速やかに繋ぐ工夫が必要と感じた。
中野市長	ありがとうございます。様々なご意見をいただきました。名称も含めて、担当課とこども未来部と調整しながらやって行きたい。
岡村事務局長	<b>(3) 令和2年度の協議事項について</b> 本年度は、「教育センター事業について」と「家庭教育と学校の問題について」御協議いただいた。次年度は、「教育センター事業について」と「家庭教育と学校の問題について」引き続き御協議いただき、また、平成28年度から平成32年度までの5年間として策定した、焼津市教育大綱の見直しについても御協議いただきたいと考えているが、その他に協議すべき項目について、本日御意見をお伺いしたい。
奥川委員	昨年度、教育委員と社会教育委員が会合を持ったが、良い会合だった。学校と地域社会が連携して行かなければならないことは重々承知している。地域社会との連携の具体化となると進捗していないような感じを持つ。社会教育委員から見た地域社会と学校教育が、どう関わって行くかという話ができたらいいなと希望をもっている。
中野市長	地域社会との連携の具体化というのも課題のひとつである。社会教育委員の方

岡村事務局長	<p>と正式な会合を作らしていただくことを、事務局で検討することを含めて、次年度の協議事項について、皆様のご意見を賜りながら進めていきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。教育における様々な課題につきましては、委員の皆様と、この総合教育会議の場でその都度御協議させていただき、課題解消に向けて、オール焼津で取り組んでまいりたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。特に、福祉の問題は初めて取り組むことで、新しいチームを作りますが、改めて皆様にお諮りしながら体制も充実して行って、こども未来部の相談室と連携する体制も検証して行きたいと思っておりますので、ご指導のほどよろしくお願いいたします。</p> <p><b>(次第4 連絡事項)</b></p> <p>次回開催予定時期を説明</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 次回は令和2年6月24日（水）午後3時から開催する。</li></ul> <p><b>(次第5 閉会)</b></p> <p><b>【午後4時00分閉会】</b></p>
--------	--